



～ 30年の歩み ～ (1995～2025) 未来に向けて

1995年4月(平成7年)阪神淡路大震災の被災者様支援を契機として創立した日本アトピー協会。

同年、小紙を創刊し、読者の皆様に育てて頂いた30年。

紆余曲折、試行錯誤の30年。未来に続くことを願い、今号を30周年記念号といたしました。

30年を振り返って

NPO法人日本アトピー協会 代表理事 倉谷 康孝

わたくしと当会の出会いは、1997年、協会事務所を訪れたのがはじまりです。繊維関係やスキンケア商品を取り扱う企業で従事していたことから、前理事長の後藤田 育宏より手伝ってほしいと依頼され、2002年からスタッフとして参加しました。その後、前理事長が永眠し、2014年より当会代表を預かり10年が過ぎました。

当会は、1995年1月17日に発災した阪神淡路大震災の被災者様支援を契機として同年4月に創立いたしました。

当会30年の歩みと共に発行して参りました小紙「あとおひなう」3-4月号を30周年記念号とさせて頂き、前理事長が残した記録やわたくしが聞き及んだ話などから振り返りたいと思います。

震災発生後、後藤田は何かに突き動かされる様に無我夢中で被災地に向かったそうです。歩くのも儘ならない道に向かい、被災地のとある場所に集まっておられた皆様に出会いました。「断水、停電でお風呂に入れていません！アレルギー対応の粉ミルクがありません！」が皆様の第一声だったそうです。

アトピー性皮膚炎の患者さん方が集まられた「関西アトピーネットワーク」の皆様でした。

まだ当会は正式に創立されておらず、ご支援出来る事は限られましたが、アレルギー対応粉ミルクのご提供を企業様に依頼、ABCラジオのご協力を得て哺乳瓶支援の告知、ペットボトル水やタオルなど、ご要望をお聞きしてのご支援を行いました。電車や高速道路はもちろん不通。一般道路も彼方こちらで隆起しており車の通行も儘ならない中、原付バイクの若いおにいちゃん達が危険も顧みず、被災地に幾度となく届けてくれました。その後、被災された皆さんが少しでも心休まることを願い、アトピー患者さんで京都市在住のフルート奏者、圓城三花さんをお願いし、被災地の病院にて患者さん慰問コンサートなども開催しました。

当会創立当時のアトピー性皮膚炎治療は、診療ガイドラインも無く、某テレビ局によるステロイド治療バッシングで患者さんと医療者の間に大きな溝が出来た混迷期でした。当会にもステロイド反対派の患者さんや企業様などから、厳しいお声やお手紙が再三届き、当会の指針も揺らぐほどだったそうです。

そんな中、「アトピー患者支援チャリティーコンサート」を大阪や東京などで開催。また、読売新聞社主催「お肌にやさしいフェア」協力。大阪府立羽曳野病院(現 大阪はびきの医療センター)との「アトピー海水浴キャンプ」なども行って参りました。

現在では、患者さんからの日常生活における様々な質問や医療機関のご紹介、交流リレーション開催。市民公開講座のお知らせなど、皆さまに必要と思われる様々な活動を行っております。

そして、「あとおひなう」は、患者さんやそのご家族、皮膚科・小児科専門医をはじめ医療機関に従事される皆様、アレルギー関連の患者会様、当会法人賛助会員様ほか、多くの皆さまにお送りしております。

今後も「患者さんやご家族の方々が必要とされるご支援」を真摯に熟慮し、足元をしっかりと見つめ活動して参る所存です。

最後になりましたが、今号を発行するにあたり、創立時よりお世話になりました諸先生方、患者様並びに患者会様、当会法人賛助企業様からもたくさんのお言葉を賜り、深く御礼申し上げます。

これからも、当会並びに「あとおひなう」を共に育てて頂きたく、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜ります様、宜しく願い申し上げます 拝。

日本アトピー協会 30周年に寄せて

あおきクリニック院長 青木 敏之 先生

(当会名 名付け親)

NPO法人日本アトピー協会30周年おめでとうございます。

アトピー協会という、まず思い出すのは初代理事長の後藤田育宏さんのことです。まだ強力でなかった会を発展させるために、全国のアトピー専門家のところをくまなく回りながら情報と資金を集めておられた人懐こい笑顔、つい先日のことのように思い出します。その後を継がれた方々は協会の発展、維持に才能を発揮され、「あとびいなう」の内容が大きく充実したと強く感じます。私も毎回楽しく拝見しております。患者さんに必要な問題からあまり気がつかない話題を取り上げて読みやすい記事を沢山掲載され、アトピー性皮膚炎患者さんやご家族にとって教育的に大きな役割を果たしておられると思います。

これまでのご功績に対し深く敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展を祈念申し上げます。

高槻赤十字病院 名誉院長 顧問 / 皮膚・形成外科センター長 和歌山県立医科大学名誉教授

大阪公立大学医学部皮膚科客員教授 古川 福実 先生

NPO法人日本アトピー協会設立30周年記念おめでとうございます。

協会が設立されたのが平成7年で、同年にアトピーナウが発行されたことHPに記載されています。私は平成11年に浜松医科大学から和歌山県立医科大学に移りまして、爾来四半世紀近く協会のお世話になっております。

平成7年頃と言うと、アトピー性皮膚炎の治療をめぐる混乱が続き、厚労省アトピー性皮膚炎治療ガイドラインの作成が進み平成11年に公開されました。しかし、マスメディアを通じて一部の間違ったアトピー性皮膚炎に対する認識が流布しており、我々皮膚科はその対応にずいぶん困ったものでした。そういう時に協会が正しい治療と啓発などを目的に設立されたのはまさにタイミングを得た素晴らしい出来事であったと思います。

アトピー性皮膚炎がある意味でビジネス商売になっていた時期とも重なるので、設立されたアトピー協会が一体どんな団体なのかと言う強い疑いの目を持っている医療関係者もいました。私自身は、当初、さほど積極的に関わった方ではなかったと思います。ところが平成11年に浜松医科大から和歌山県立医科大学の方に移りました。当時和歌山県はアレルギー不毛の地とまで言われたところでしたので、花粉症、アトピー性、鼻炎、喘息など啓発のシステムを作らざるを得ない状況になっておりました。その時に車の両輪として威力を発揮したのが、アトピー協会でありもう一つは日本アレルギー協会関西支部でした。前者で印刷物を通して、後者では市民公開講座などを行って啓発活動を行い、今でも続いております。

私が協会のお世話になったのは、かゆみの刺激を抑制する肌着を地元の繊維業界の方々と一緒になって開発したときでした。これに関してはまだまだ産官学のシステムが不完全で、患者さんへの貢献ということが十分にできなかったのです。けれども、ずいぶん協会さんの方でもPRしていただきました。

私は平成29年に和歌山医大を定年退職して高槻赤十字病院に移動いたしました。平成30年の大阪府北部地震、同年の台風、大雨、そしてその後のコロナ感染症の流行といった時々、協会さんによる多くのバックアップは今となっては大変思い深いものです。現在では、市民向けの院内健康講座に協賛を得ております。ありがたいことだと思っております。今後の継続した活動を通して、協会さんがますますご発展していただくことを祈っております。





ふくずみアレルギー科院長 吹角 隆之 先生

(NPO 法人日本アトピー協会理事)

日本アトピー協会は、会報誌『あとぴいなう』の発行、相談会・講演会の開催、日本アレルギー学会等での出展、安全な商品のアトピー協会認定など、これまで多岐にわたりアトピーの啓蒙と患者さんのサポートに尽力されてきました。

私が開業したのは平成15年です。アトピー性皮膚炎を柱に、蕁麻疹、食物アレルギー、シックハウス症候群、化学物質過敏症を専門に診療を始めました。

これらの疾患のどれもが生活環境、暮らし方、食生活、睡眠、運動、ストレスなど生活習慣と関係しています。そのため、患者さんに寄り添って原因を探し出して解決していく根気強い取り組みが必要だと考えています。

アトピー性皮膚炎の治療法の進歩は目覚ましく、次から次へと新しい生物学的製剤が開発され患者さんの選択肢は増加の一途を辿っております。

近年はインターネットが急速に発展し、SNSで情報が一瞬で世界中に拡散されます。患者さんは氾濫する情報の中から正確な情報を探し出すメディアリテラシーをこれまで以上に必要とされている事でしょう。このような状況下で日本アトピー協会の果たす役割はますます重要になっていくと思われます。

この度30周年を迎え、今後も患者さんの信頼にこたえる情報源、患者さんを支える存在としてさらに発展することをお祈りいたします。



笹川皮膚科 名誉院長 大阪皮膚科医会 顧問 笹川 征雄 先生

創立30年をお祝い申し上げます。

記憶に残るのは、1993年「奇妙な出来事アトピー」の上映会に参加していた「関西アトピーネットワーク」代表池田道則氏と話し合ったのが患者団体との初めての出会いでした。当時、子供だけと考えられていた大人のアトピー性皮膚炎(AD)が激増し、ステロイド治療を巡って社会問題化していましたが、折しも'93年ステロイドへの批判が世間に広がるきっかけになったテレビ朝日ニュースステーション特集「副腎皮質ホルモン外用剤の副作用」の放映中に皮膚科学会で初めての抗議をしたことです。

'94年大阪府に「成人アトピー性皮膚炎に関する要望書」(大阪府保険医協会)を提出しましたが、多くのマスコミや海外に発信するThe Japan Timesにも取り上げられ、ADのステロイド治療は世間の関心を集めました。患者さんは「ステロイドは使いたくない」、医師は「使わないと治療ができない」との深い溝を埋めるべく患者団体の中に飛び込みました。

'95年「日本アトピー協会」が創立されて以来、2014年には現在の代表倉谷康孝氏へと引き継がれて隆盛を極めていきます。今後も患者さんの目線で問題解決に向けて社会貢献され発展されることを願っています。

大阪はびきの医療センター 副院長 皮膚科主任部長 片岡 葉子 先生

創刊30周年おめでとうございます。

私が今の施設に赴任したのもちょうど30年前です。当時は脱ステロイド全盛期で、数多くの治らない重症の患者さんの苦労を目の当たりにして、どうすれば現状を変えられるのか、ずっと考えながら診療や啓発を続けてきました。

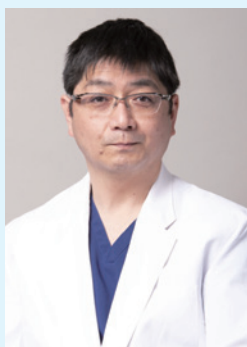
医療不信の時代に創刊された“あとぴいなう”、この間、脈々と、いつも暖かく見守るような紙面で、日常生活から薬剤の情報等々、数多くの情報を読者に提供してきたことは、医療と患者をつなぐ大きな役割を果たされたのだと思います。

アトピー性皮膚炎の治療の方法や治療薬剤にも数多くの選択肢が登場し、より良い治療効果が望める時代になってきました。でもまだまだ課題は残っています。

30年間お疲れ様でした、そして今後の発展も期待しています。



独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター 小児科医長 井上 徳浩 先生



日本アトピー協会、およびその関係者の皆様、30周年おめでとうございます。

30年ともなれば、学術的な話も変わってきましたし、ここ数年ではコロナのもとでどうやって活動するかも悩ましかったことと思います。そんな中でも、私たちの診療に、学会活動に変わらずご協力、出展していただき、活動を広めるだけでなく、患者さんたちを助け続けてくださったことにはとても感謝しています。

振り返らせていただくと、おそらく2004年頃に講演の機会をいただきました。そのときの私の講演内容はさびしいものでしたが、東京から大阪に戻ってきてしばらくの2011年に当時の代表であった後藤田さんにお声がけいただき、阪急グランドビルで講演の機会をいただきました。

たくさん阪急電車の駅にポスターを貼ってくださり行った講演を当時の後藤代表が阪急の対応にも、講演にも大変喜んでくださり、今も感謝しています。その以前も以降も、患者さんの紹介などいろいろお世話になっていることを考えると会の大切さを感じています。

変わらぬ活動での30周年、おめでとうございます。これからも、患者さんのニーズに合わせた活動を続けていただくことを、私たち医療者の側からもよろしくお願いします。

公益財団法人日本アレルギー協会 理事 関西支部支部長

近畿大学病院 病院長補佐 アレルギーセンター教授 佐野 博幸 先生

日本アトピー協会創立30周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

30年間にわたり、アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患に対して、患者支援や啓発活動を積極的に展開されてきた貴団体の取り組みに、心から敬意を表します。

アレルギー疾患は個々の生活に大きな影響を与えるものであり、私たち公益財団法人日本アレルギー協会も、啓発活動、医療支援、研究活動を通じてアレルギー疾患対策をするだけでなく、より多くの患者とそこご家族に寄り添い、社会全体の理解を深めていくことが使命であると感じております。

今後も、共に協力し合い、増加するアレルギー疾患の対策に向けて力を合わせていくことが重要と考えていますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。



臨床心理士 フリーアナウンサー 関根 友実 さま (あとぴいなうエッセイ寄稿)

30周年、誠にありがとうございます。阪神大震災の時に発足され、歩みを止めずに情報発信を続けてこられたことに、心より感謝と敬意を表します。

インターネットで情報が氾濫する中、確かな情報を得ることが当事者にとっては何より重要です。そんな中、機関誌「あとぴいなう」では、最先端の治療法のみならず、標準治療や日々のスキンケアがいかに大切であるかを伝え続けています。また、患者の声に耳を傾けて、実際の困りごとをすくい取り、生活面や経済面の様々な対処法など、必要かつ有益な情報を届けてくださいます。



私自身が担当したエッセイでは、季節やテーマに合わせて患者として心理職として思いを馳せたことを綴らせていただき、言葉にすることで初めて「心の奥底で感じていたこと」に気がつくという貴重な体験をさせていただきました。

これからも、当事者同士が繋がり、絆を育めるような場を作り続けていただければ嬉しいです。

～ 30年の歩み～ (1995-2025) 未来に向けて

※青文字が写真に対応しております

1995年
(平成7年)

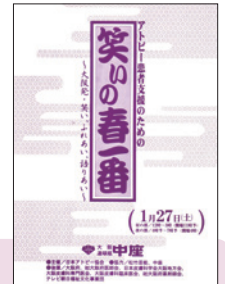
- 罹災したアレルギー患児を持つお母さん方にアレルギー用粉ミルクを届ける。
罹災患者慰問の病院コンサートを開催。
- 阪神淡路大震災の支援活動を機に関西アトピーネットワークの事業を引き継ぎ
日本アトピー協会を大阪市北区同心町にて創立。
- 同年秋に東京サントリーホール・大阪いずみホール
にてアトピー患者支援チャリティーコンサートを開催。
- 通信紙「あとぴいなう」を創刊。



事務所開設後も、阪神淡路大震災で被災されたアトピー患者さん支援が続きました。身の丈を弁えない、大ホールでのコンサート主催。「あとぴいなう」もカラー印刷タブロイド判と意気揚々？

1996年
(平成8年)

- 事務所を大阪京橋の都島区片町2丁目のAビルに移る。
- 松竹芸能様協力「アトピー患者支援・笑いの春一番」開催(大阪中座)
- アトピー関連商品を集めた「第1回お肌にやさしいフェア」協力。
(読売新聞社主催・大阪梅田阪神百貨店)大阪皮膚科医会医師による相談会を開催。



「あれダメ・これダメ」が多いアトピー患者さん。マイナスを減らすことも大切ですが、プラスになる催しを企画。「笑いの春一番」では、皆さんの笑顔で反対に励まされました。

1997年
(平成9年)

- 第9回日本アレルギー学会春季臨床大会市民公開講座にてアトピー患者の現状を報告。
- アトピー関連商品を集めた「第2回お肌にやさしいフェア」協力。
(読売新聞社主催・大阪心斎橋そごう百貨店)
大阪皮膚科医会医師による相談会を開催。
- 喘息患者支援「喘息デー」に協力。
- アトピー患者支援コンサート「クラシックの夕べ」開催。
ホテル日航那覇グランドキャッスル。(沖縄那覇市)



生まれて初めての沖縄。空港からタクシーで会場までむかい米軍基地の大きさに驚きました。ソーキそばも初めて食べました。

1998年
(平成10年)

- 事務所を都島区片町2丁目Aビルに隣接する「アップルビル」
2階に移す。
- 大阪府立羽曳野病院共催 第1回「アトピー海水浴キャンプ」開催。
大阪府立海洋センター(大阪府岬町淡輪)
- 名古屋アトピー環境研究会にオブザーバーとして出席。



倉谷が初めて協会を訪問したのも、このビル。京橋駅から昼でもネオンがチカチカする店前を通り、少し不安になったのを覚えています。海水浴キャンプでは、塩水を洗い流すために、ご協賛頂いたミネラルウォーターを惜しげもなくシャワー代わりに。

- 1999年** (平成11年)
- 大阪府立羽曳野病院共催 第2回「アトピー海水浴キャンプ」開催。
(和歌山県南紀白浜)
 - 小児科医 三河春樹医師(関西電力病院院長・当時)の講演会開催。
(大阪国際交流センター)



第2回目の海水浴キャンプ。花火にスイカ割り。スイカを買いに現地スーパーまで買い出しに行きました。

- 2000年** (平成12年)
- 小中高 1000 校を対象に学校におけるアトピー患児および学校標準服(制服)アンケート調査実施。
 - 第 51 回日本皮膚科学会中部大会総会学術大会アトピーフォーラムにてオーガナイザーを務める。
 - 淡路花博ガーデニングコンテストに参加。アトピー海水浴キャンプを開催。
 - 皮膚科医・山田秀和医師(近畿大学医学部皮膚科助教授)講演会を開催。(奈良市新公会堂)
 - 兵庫食物アレルギー研究会にオブザーバーとして出席。



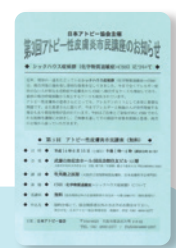
- 2001年** (平成13年)
- 大阪府立羽曳野病院共催 第3回「アトピー海水浴キャンプ」開催。(兵庫県淡路島東浦)
 - 皮膚科医 石井正光医師(大阪市立大学医学部皮膚科教授)講演会開催。(大阪国際交流センター)
 - アトピー患者支援コンサート「キエフの響き」開催。
(東京浜離宮朝日ホール)



第3回目の海水浴キャンプ。車座で先生方をジャック。夜中遅くまで患者さんの質問攻め。先生ごめんなさい。



- 2002年** (平成14年)
- 大阪府立羽曳野病院共催 第4回「アトピー海水浴キャンプ」開催。
(兵庫県淡路島東浦)
 - 皮膚科医 吹角隆之医師(大阪府立羽曳野病院皮膚科医長 当時)講演会開催。
(大阪国民会館)



恒例の海水浴キャンプ。食物アレルギー除去のバイキング。アイスクリーム(乳不使用)を生まれて初めて食べた男の子に涙しました。

- 2003年** (平成15年)
- 大阪府立羽曳野病院共催 第5回「アトピー海水浴キャンプ」を開催。(兵庫県淡路島東浦)
 - 日本アトピー協会推薦品マーク制度の実施案などを作成。



- 2004年** (平成16年)
- 日本アトピー協会推薦品マーク認定制度を発足。
 - 日本アトピー協会ホームページ公式サイトをオンライン。

構想 10 年。患者さんからの「ところで何かいいものありませんか?」というお声を形にしたいと、恐る恐るのスタート。

- 2005年** (平成17年)
- 第 55 回日本アレルギー学会秋季学術大会付設展示会に初出展。
(盛岡市民文化ホール・マリオス)
 - ホテルレストラン関係者に対するアレルギー患者対応食懇談会を実施。
(名古屋マリオンネットアソシエ)



初めて関連学会付設展示会に出展。出展料に宿泊・交通費まで協賛企業様にご負担頂きました。拝。

2006年
(平成18年)

- 第 69 回日本皮膚科学会東京支部学術大会付設展示会出展。(パシフィコ横浜)
- 第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会付設展示会出展。(京王プラザホテル)
- 第 56 回日本アレルギー学会秋季学術大会付設展示会に出展。(東京国際フォーラム)
- マクロビオテックによるアレルギー除去食対応昼食体験会の実施。(ホテルレストラン)



当時、話題となっていたマクロビオテックによる昼食会。テンペで作ってくださったハンバーグのクオリティには驚きました。

2007年
(平成19年)

- 特定非営利活動法人 日本アトピー協会 として法人登記。
- 第 19 回日本アレルギー学会春季臨床大会付設展示会に参加(パシフィコ横浜)
- 第 57 回日本アレルギー学会秋季臨床大会付設展示会に参加(パシフィコ横浜)
- 第 44 回日本小児アレルギー学会付設展示会に参加(名古屋国際会議場)



創設から 12 年。特定非営利活動法人(NPO 法人)として法人化。相変わらずの資金難・人材難で活動が低空飛行中。

2008年
(平成20年)

- 第 107 回日本皮膚科学会総会付設展示会に参加(国立京都国際会館)
- 圓城三花さん(フルート奏者)アトピー患者相談会の支援



2009年
(平成21年)

- 協会事務所を大阪市中央区道修町 1 丁目 日精産業ビルに移す。
- 新型インフルエンザ緊急マスク支援の実施。
- 第 48 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会付設展示会に参加。
- 第 2 回 新型インフルエンザ緊急マスク支援の実施。

紆余曲折。現在の所在地お菓の町、道修町に 4 度目の事務所移転。前途多難?神農さんにお参りました。

2010年
(平成22年)

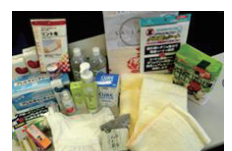
- 『漢方薬及び一部ステロイド外用薬等の保険適用外判定』への反対表明。民主党大阪府連に要望書を提出。
- 「漢方薬についての意識調査アンケート」の実施。
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(京都円山公園)
- 韓国教育テレビ(ETV)によるテレビ取材。
- 野村皮膚科医院アレルギー対応カフェオープニングパーティーに出席。
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(舟遊び 大阪大川)



初開催の『患者さんの集い』桜の下、落語家風?の方の『つる』の一席。秋は屋形船にてお鍋に舌鼓。

2011年
(平成23年)

- 第 5 回アトピー性皮膚炎市民講座を開催。近畿大学奈良病院皮膚科教授 山田秀和先生。同大附属病院小児科 井上徳浩先生のご講演。(大阪梅田 阪急グランドビル)
- 東日本大震災緊急支援。大阪府支援対策室のご協力でアレルギー対応商品や粉ミルクの緊急支援物資を大阪府八尾空港より第一便を託送。
- 東日本大震災緊急支援 (3/20 ~ 4/30)
盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」(ご代表 藤田美枝) 様のご協力を得て、避難所のアトピー・アレルギー患者さんにアレルギー対応菓子・防寒着(スキーウェア)・肌着・マスク・バスタオル・フェイスタオル・患者さんが使用出来る石鹸などの日用品を随時発送。
患者会員さん提案で絵本・お絵描き帳・クレヨンを会員各位に呼び掛け被災地に発送。
- 東日本大震災緊急支援。被災されたアトピー・アレルギー患者さんが使用出来る様々な商品を詰め合わせた「日用品支援レスキューパック」の支援開始。



- 日本産業皮膚衛生協会創立 40 周年記念講演にお招き頂きました。
(京都リーガロイヤルホテル)
- 第 27 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会付設展示会に会頭笹川征雄先生のご厚意により協会ブースを出展。(グランキューブ大阪)
- 第 21 回日本外来小児科学会年次集会付設展示会に出展。
(神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場)
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(猪倉温泉)



山田秀和先生・井上徳浩先生のご講演をお願いした 1 週間後、東日本大震災が発生。発生が金曜日 14 時 46 分。情報収集していると終業時間間近、土・日を挟む前に急いで企業様に支援物資を依頼。車を借りて大阪八尾空港まで支援物資をヘリコプターに載せて頂きました。

2012年 (平成24年)

- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 奈良参加・聴講。(奈良市秋篠音楽ホール)
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間 web 市民公開講座」in 大阪 参加・聴講。(大阪淀屋橋 朝日生命ホール)
- 大阪ガス・日本ハム共催「アレルギーセミナー」に出席。(大阪千里万博 大阪ガス生活誕生館 DILIPA)
- 第 4 回メンタルヘルスセミナーにてアレルギー疾患をお持ちの
元朝日放送アナウンサー関根友実さんの講演を聴講。
(大阪天満橋エルおおさか)
- 第 49 回日本小児アレルギー学会付設展示会に出展。
(大阪国際会議場)
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(京都太秦映画村)



2013年 (平成25年)

- 第 24 回日本小児科医会総会フォーラム in 大阪付設展示会に出展。
(大阪市中心公会堂)
- KEHWA(韓国環境健康福祉協会)と友誼関係を締結。
- 第 43 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会付設展示会に出展。(ホテル日航金沢)
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(大阪天正寺)



韓国ではアトピー患者さんが長期滞在できる立派な施設なども見学し、立派な施設に感化されました。天正寺では、患者さん方と一緒に座禅会。そのあと四天王寺さんを散策しました。

2014年 (平成26年)

- 第 24 回日本外来小児科学会年次集会付設展示会に出展(大阪国際会議場)
- 第 26・27 回日本製薬工業協会主催 患者団体セミナーに参加
(大阪第一ホテル)
- 「いい皮膚の日」講演会京都会場(メルパルク京都) 参加・聴講。
- 11 月 12 日 理事長 後藤田育宏 永眠(享年 78 歳)
- 臨時総会にて倉谷康孝が理事長に就任。
- 「いい皮膚の日」講演会大阪会場(西梅田オーバルホール) 参加・聴講。
- 日本繊維科学消費科学会主催、第 19 回消費科学講座(大阪・東京)にて「敏感肌に対する繊維製品の重要性」と題して、アトピー患者さんの繊維製品に対する現状などを報告。



前理事長の後藤田が永眠したため、患者さんの集いも中止させて頂きました。入院から約半年を待たず、わたくしが病院にお見舞いに行くと間もなくでした。今も事務所の片隅にあるスナップ写真が見守ってくれています。

2015年
(平成27年)

- 「いい皮膚の日」講演会大阪会場(西梅田オーバルホール)参加・聴講。
- 第52回日本外小児アレルギー学会付設展示会に出展(ホテル日航奈良)
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(竹田城跡)
- 大阪府立羽曳野支援学校を訪ね、学校先生方に病弱教育の現状についてお聞きしてきました。
- 病院・医院6施設の通院されている患者さんにマスク(大人用・子供用)をご提供。

2016年
(平成28年)

- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 大阪に参加・聴講。
- 日本産業皮膚衛生協会様主催の会員研修会にお招き頂きました。
- NPO法人大阪医療ソーシャルワーカー協会様を訪問。
- 認定NPO法人日本クリニックラウン協会様を訪問。
- 第40回日本小児皮膚科学会学術大会付設展示会に出展。
- 大阪府立羽曳野支援学校へご寄贈。学習発表会にお招き頂きました。
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(栗拾い 能勢町汐の湯温泉)
- 日本製薬工業協会様主催の患者団体セミナーに参加。(大阪第一ホテル)
- 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会付設展示会に出展。(京王プラザホテル)
- 「いい皮膚の日」市民公開講座(大阪オーバルホール)に参加・聴講。
- 病院・医院6施設に通院されている患者さん用マスク(大人用・子供用)をご提供。



大阪府はびきの医療センターに隣接する羽曳野支援学校。医療センターに入院中の子供さん方が通学されています。学習発表会では、病気に負けず元気一杯の演奏や演舞などで反対に元氣と勇気を頂きました。

2017年
(平成29年)

- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民講座」in 大阪に参加・聴講。(AP 大阪淀屋橋)
- 大阪府主催「アレルギー疾患講演会」に参加・聴講。
- 日本産業皮膚衛生協会様主催 会員研修会にお招き頂きました。(メルパルク京都)
- 第33回日本臨床皮膚科医会総会付設展示会に出展。(ANA クラウンプラザホテル神戸)
- 第34回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会付設展示会に出展(ピアザ淡海/滋賀県)
- 大阪府羽曳野支援学校へご寄贈。
- 大阪府羽曳野支援学校創立20周年記念式典にお招き頂きました。
- 「いい皮膚の日」市民講座大阪会場に参加・聴講。(オーバルホール)
- 日本製薬工業協会様主催 第32回「患者団体セミナー」に参加。(大阪第一ホテル)
- 健康保険連合会様による「ヒルドイドをはじめとするヘパリン類似物質製剤の処方制限」に対して反対表明を厚労省はじめ関係各位に声明文を送達。
- (株)医薬経済社様より、反対声明に対する取材を頂きました。
- 病院・医院7施設に通院されている患者さん用マスク(大人用・子供用)をご提供。



パシフィコ横浜や東京国際フォーラムなどで開催の関連学会にも出展しましたが、3日間開催中の立ちっぱなしに疲労困ぱい。アテンダントするスタッフ全員の新幹線代。宿泊費。ちょっと考え直しました。『患者さんの集い』は台風直撃で中止に。。。

2018年

(平成30年)

- 関西医科大学付属病院アレルギーセンター「市民公開講座」に参加・聴講。
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 大阪に参加・聴講。(AP 大阪淀屋橋)
- 大阪府主催アレルギー疾患講演会「知って安心!みんなで学ぼう!」に参加・聴講。
- 日本産業皮膚衛生協会主催、会員研修会にお招き頂きました。(メルパルク京都)
- 日本アトピー協会主催「アトピー・アレルギー勉強会・交流会」を開催。
ふくずみアレルギークリニック院長 吹角隆之先生。
- 平成 30 年 7 月豪雨(西日本豪雨)へのご支援を開始。
- 北海道胆振東部地震へのご支援を開始。
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(鳴門うず潮観光)
- 大阪府立羽曳野支援学校の学習発表会にてご寄贈品目録をお渡しして参りました。
- 「いい皮膚の日」市民公開講座に参加・聴講。(大阪 オーバルホール)
- 日本製薬工業協会主催「第 35 回患者団体セミナー」に参加・聴講。(大阪第一ホテル)
- 第 5 回日本アレルギー学会総合アレルギー講習会付設展示会に出展。(大阪国際会議場)



公益財団法人日本アレルギー協会関西支部様のご厚意により、市民公開講座に参加。発行小紙「あとびいなう」を設置頂き、参加された皆様にお持ち帰り頂く機会となりました。

2019年

(令和元年)

- 関西医科大学付属病院アレルギーセンター「市民公開講座」に参加・聴講。
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 大阪に参加・聴講。(AP 大阪淀屋橋)
- 認定 NPO 法人 fasolabo 京都様主催「食物アレルギーシンポジウム」IN 京都」に応援団として展示参加。
- 大阪赤十字病院主催アレルギー市民公開講座「アレルギーの予防のケア」にブース出展。
- 大阪府アレルギー疾患医療拠点病院事業「アレルギー疾患講演会」に参加・聴講。
(大阪国際がんセンター)
- 第 36 回日本小児臨床アレルギー学会付設展示会に出展。(和歌山県民文化会館)
- 2019 市民の健康・食育フェア記念講演会 高槻赤十字病院院長 古川 福実先生のご講演を聴講。
- 大阪府・アストラゼネカ(株)共催「知っておきたいアレルギーの話」に参加・聴講。
(グランフロント大阪)
- 日本製薬工業協会様主催「第 3 回 患者団体アドバイザリーボード」に参加。(大阪第一ホテル)
- 近畿大学病院アレルギーセンター・大阪府共催「市民のためのアレルギー基礎知識」
(SAYAKA ホール 大阪狭山市) 市民講座に参加・聴講。
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(京都府 保津川下り~天龍寺)
- 第 2 回日本アレルギー学会地方会近畿支部学術講演会に参加・聴講。
(メルパルク京都)
- 大阪府立羽曳野支援学校へご寄贈。
- 「いい皮膚の日」市民講座大阪会場に参加・聴講。(大阪 オーバルホール)
- 『# SNS 医療のカタチ』に参加・拝聴。(メルパルク京都)



コロナ感染症が始まる前、最後の患者さんの集いになってしまいました。保津川下りのあとは嵐山の天龍寺にて 精進料理を頂きました。カツオ出汁も使わないことに驚いた方もおられましたが、皆さん美味しく完食。

2020年

(令和2年)

- 関西医科大学付属病院アレルギーセンター「市民公開講座」参加・聴講。
(ラポールひらかた) 近隣にお住まいの患者さんに案内状を送付。
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間府民公開講座」in 京都参加・聴講。
(TKP 京都駅前) 近隣にお住まいの患者さんに案内状を送付。来場者にマスクのご提供。
- 大阪羽曳野支援学校様よりご寄贈品のお披露目会にお招き頂きました。



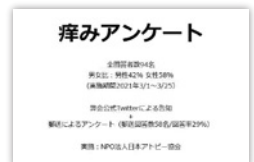
コロナ感染症により、市民公開講座などが次々中止に。毎年、楽しみにしておりました「患者さんの集い」も泣く泣く中止しました。

2021年

(令和3年)

- 製薬会社様との協働事業の開始。
- アトピー性皮膚炎「痒みに関するアンケート」を実施。
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 大阪 WEB 聴講。(AP 大阪淀屋橋)
- 皮膚科専門医による「かゆみ研究会」に参加。「かゆみアンケート」を発表。
- 第 30 回 日本外來小児科学会年次集会付設展示会に参加
(京都・同志社大学今出川キャンパス)
- 「アトピー性皮膚炎かゆみ講演会 in 滋賀」にて「アトピーはかゆい!」を発表。
- アレルギー疾患「大阪府民公開講座 2021」大阪会場参加。堺会場 WEB 聴講。
- 大阪府立羽曳野支援学校様へご寄贈。
- コロナウイルス感染症対策により、出勤規制・時差出勤を実施。

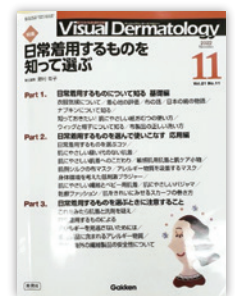
多くの患者さんからご回答を頂き有難うございました。先生方を前に、はじめての登壇。すっかり汗して何を話したのか記憶も?ですが、皆さんのお声をお届けしてきました。



2022年

(令和4年)

- 製薬会社様との協働事業の実施。
- 大阪府立羽曳野支援学校様へご寄贈。
- 株式会社「主婦と生活社」より東日本大震災支援活動の取材。
- いい皮膚の日講演会 京都府民公開講座 WEB 聴講。
- 食物アレルギー関連クラウドファンディングに寄付。
- 関西医科大学附属病院アレルギーセンター Web 市民公開講座開催
案内の送付。
- サイネオス・ヘルス・クリニカル株式会社様より
「アトピー性皮膚炎の疾患管理の現状やそのための対策と課題」アンケートの実施。
- 東北生活文化大学 家政学部家政学会 水谷 浩先生より「湯浴み衣」についてのご相談とご提案。
- 栄養士のための大阪食物アレルギー研究会(OFAD)第7回夏季研修会に参加聴講。
- 野村皮膚科院長 野村有子先生のご厚意で「Visual Dermatology Vol.21 No.11 2022 年 11 月号」
にコラム「国内・海外の繊維製品の安全性について」を掲載頂きました。



2023年

(令和5年)

- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 大阪 参加・聴講。(AP 大阪淀屋橋)
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間府民公開講座」in 京都 WEB 聴講。
- 大阪府立羽曳野支援学校様へご寄贈。
- 第9回日本アレルギー学会総合アレルギー講習会に出展。(大阪国際会議場)
- 第3回大阪赤十字病院アレルギー市民公開講座に参加・聴講。
(大阪府教育会館たかつガーデン)
- 野村皮膚科医院開業 25 周年記念パーティーにご招待頂きました。
(ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜)
- 一般社団法人日本研究皮膚科学会 / 第1回国際研究皮膚科学会共催市民公開講座案内
送付・WEB 聴講。
- 第47回日本小児皮膚科学会学術大会にご招待頂き参加
させて頂きました。(大阪国際会議場)
- 大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル「Smile・Smile」主催。
第1回こどもアレルギー学会に出展。
(大阪狭山市文化会館 SAYAKA ホール)
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』(滋賀県 琵琶湖テラス)



- 日本産業皮膚衛生協会研修会にお招き頂きました。(リーガロイヤルホテル京都)
- Global Health Living Foundation (GHLF) 主催。日本の各患者団体 8 団体の会合に参加。
- 大阪府薬剤師会訪問。

こどもアレルギー学会は大盛況。主催者様の立派な活動に敬服しかありません。患者さんの集いは山頂も見事な秋晴れの好天。昼食はピクピク動く鮎を焼いて皆さんおおはしゃぎ。追加注文が止まりませんでした!

2024年 (令和6年)

- 製薬会社様との協働事業の実施。
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 奈良 参加・聴講。
(奈良公園バスターミナルレクチャーホール)
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間府民公開講座」in 京都 WEB 聴講。
- 日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」in 大阪 参加・聴講。
(AP 大阪淀屋橋)
- 大阪府立羽曳野支援学校様へご寄贈。
- 第 40 回日本臨床小児アレルギー学会付設展示会に出展。
(大阪 梅田スカイビル)
- 近畿大学病院・アレルギーセンター主催 アレルギー市民公開講座に参加・聴講。
- 大阪市主催 第 29 回すこやかパートナー意見交換会
に出席。
- 日本アトピー協会主催『患者さんの集い』
(香川県 郷屋敷)



羽曳野支援学校様へ今年で 9 回目のご寄贈。患者さんの集いは、本場讃岐うどんを食べに香川県へ。米粉のお菓子メーカー(株)禾様にて、お菓子の詰め放題にチャレンジ!

2025年 (令和7年)

- 第 31 回日本アレルギー協会主催「アレルギー週間市民公開講座」
和歌山会場・大阪会場にて『NPO 法人日本アトピー協会 活動紹介』講演。
- 関西医科大学附属病院府民公開講座にて
『災害発生!アトピー・アレルギーがあると困ること』講演。
- 関根友実さんエッセイ集『友実のアトピーづきあい徒然日記』発刊。



2025年(令和7年) 未来に向けて

そして、30 年目となる本年。あんなこと。こんなこと。と患者の皆さんに必要なこと。
日常を忘れて楽しんでもらえること。など思い巡らせております。
今年も皆さんにとって必要な活動が出来ることをじっくり考え行って参りたいと思います。

ご寄稿

法人賛助企業様

NPO法人日本アトピー協会の皆さんへ

この度は、貴会の30周年を心よりお祝い申し上げます。
当社は皮膚科学領域に特化し、患者さんのQOL向上を目指した事業活動を展開しています。数年前貴会のご協力のもと、当社社員向け情報サイトの企画「患者さんの声」を通じ、病氣と向き合う患者さんやその家族の気持ちなどを、当社社員が学ぶ機会を与えて頂きました。「患者さんの声」の企画が現在、企業活動に生かされています。

アトピー性皮膚炎の治療も進化を遂げていますが、解決すべき課題は多く残っています。当社はこれからも貴会とのパートナーシップを大切に、患者さんがより良い生活を送れるよう努めてまいります。

今後も貴会の活動が益々充実していくことを、心より応援しています。

マルホ株式会社

この度、発足30周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、貴協会が長年にわたりアトピー性皮膚炎やアレルギー諸疾患の方々へのご支援と情報提供を続けてこられたことに、深い敬意を表します。

東レ株式会社トレビーノ事業部は、貴協会の活動に賛同し、浄水シャワー「トレビーノトレシャワー」を通じて、肌やさしいお水を提供することで、多くの方々が安心して快適な生活を送れるよう、製品の開発を行ってまいりました。

これからも、貴協会と共に、安心で健やかな暮らしを支える一助となれるよう、努めてまいります。

最後に、30周年という素晴らしい節目を迎えられた貴協会の更なる発展と、「あとびいなう」読者の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

東レ株式会社トレビーノ事業部長
山中 康廣

協会の公式X(旧Twitter)開始しております。



2018年より弊会公式Xとして開始しております。

様々な関連情報や全国で開催されるアレルギー関連の市民公開講座など小紙に掲載できていない内容なども随時アップしております。小紙読者の皆様もご登録をお願い致します。



<https://x.com/NPO48732655>

患者さんからのご相談はいつでもお受けします。

症状がいっこうに改善されず長びく治療にイライラが募り先行きを悲観…ちょっと待った! 全国約600万人(※)の方があなたと同じ悩みをかかえています。ここはみんなで「連帯」し、ささえあいましょう。

日本アトピー協会をそのコア=核としてご利用ください。

※H12~14年度厚生労働科学研究によるアトピー性皮膚炎疫学調査より推計。

ご相談は

電話：06-6204-0002 FAX:06-6204-0052

メール：jadpa@wing.ocn.ne.jp

(火・木 10:00~16:00)

お手紙は表紙タイトルの住所まで、なおご相談は出来るだけ文面にしてお願いします。電話の場合はあらかじめ要点をメモにして手みじかにお願いします。

(ご相談は無料です。)

◆協会は法人企業各社のご賛助で運営しております。 ◆患者さんやそのご家族からのご相談は全て無料で行っております。

全国の患者会の皆さま

30周年、誠におめでとうございます。

東日本大震災の際には、無償で支援物資をご提供いただき、また活動が続ける私たちに温かく、心強いお言葉をいただきました。どれほど大きな支えとなったか、言葉では言い尽くせません。また、毎月発行されている「あとぴいなう」は、とても勉強になり、いつも楽しく拝読しております。

これからも、アトピー性皮膚炎患者さんとそのご家族のための活動がますます発展されることを心よりお祈り申し上げます。

いわてアレルギーの会 代表 山内 美枝

30周年記念、おめでとうございます。

西日本豪雨の際、7つの患者会で被災地食料支援を行う中で、アトピー性皮膚炎が悪化の声が届き、相談をさせていただいた時から、お付き合いが始まりました。

SNS情報が溢れる社会ではありますが、医療者と繋がりが正しい知識の発信をして頂けること、非常に貴重だと思います。

貴協会の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

LFA食物アレルギーと共に生きる会 代表 大森 真友子

創立30周年、誠におめでとうございます。

アトピー性皮膚炎を持つ患者家族の相談や啓発活動へのご功績に、心より感謝しております。一歩先を見据える患者会活動の取り組みから、今後も更に学ばせていただきたいと思っております。

皆様のますますのご繁栄とご活躍をお祈り申し上げます。

大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル『Smile Smile』
代表 田野 成美

NPO法人日本アトピー協会の創立30周年、心よりお祝い申し上げます。長年にわたる患者支援や啓発活動に尽力され、多くの希望を届けてこられたことに深く敬意を表します。また、西日本豪雨災害時に賜りましたご支援にも心より感謝申し上げます。

今後も温かいご活動がさらなる発展を遂げられることを、心よりお祈り申し上げます。

三原アレルギーの会ひだまり 代表 中尾 みゆき

30周年おめでとうございます。

30年前といえば、アトピーに関してはまだ医学的にも現在のように進歩していません、悩めるアトピーの子をもつ親をターゲットにした怪しげなアトピービジネスが横行していた時代でした。

そんな時代にアトピーへの正しい視点を示して発行された『あとぴいなう』は、まさに暗い海に光を照らしてくれる灯台のような存在だったと思います。

その輝きは現在も続いています。どうぞこの先も私たちの灯台となって、光り続けてください。

NPO法人ヘルスケアプロジェクト チームアレルギー 代表 鉄穴森陽子

30周年おめでとうございます。一昨年山口でアレルギー防災講演を開催した際には、アトピー支援グッズを展示用に送っていただき、貴会の会員さんにもお声がけいただきました。

小さな患者会ですが、いつも見守っていただきありがとうございます。貴会の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

山口アレルギーっ子の会ばればれ 代表 田辺理恵

30周年、心よりお祝い申し上げます。

毎月発行されるあとぴいなうや、講演会などでの的確な情報の御提供は、学ぶことが多く、大変感謝しております。特に被災された患者様やご家族に寄り添った支援活動を知った際、貴協会の活動に深い感銘を受けました。今後も益々のご発展を心より祈念申し上げます。

愛媛県松山市アレルギーっ子の会スマイルkids
代表 宮崎 世志子

『あとぴいなう』読者の皆様

創立30周年、お祝いを申し上げます。

「あとぴいなう」は、アトピー患者にとって「そこが知りたい」と思うタイムリーな内容を、かみ砕いて客観的に教えてもらえるのでありがたいなあと思い拝読しています。アトピー患者さんのイベントにも参加させていただいたこともあり、創立者の後藤田さんに色々お話ししていただいたこともいい思い出です。

これからも患者さんが困ったときに頼りにできる存在であり続けてほしいなと思います。希望を言えば「あとぴいなう」の文字がもう少し大きければいいなと思います。

兵庫県在住 NMさん

いつも「あとぴいなう」を愛読しております。

アトピー性皮膚炎に関する様々な情報、最新の治療法、予防法、生活改善のヒント、患者さんの体験談、アトピー向けの新商品、講座の紹介などとても役に立つ内容です。入会後数年が経ちますが、「あとぴいなう」は全部ファイルしています。

私は大人になってからアトピーが発症して、長い年月をかけてこの病気と向き合ってきました。薬の塗布、高額な注射、生活習慣の改善など多面的なアプローチが必要で、毎日の保湿は欠かせず、薬の効果に一喜一憂しながら試行錯誤を続けてきました。症状が落ち着いたかと思えば予期せぬ悪化に戸惑い、身体的な症状だけでなく、精神的な負担も大きく、落ち込むことも多々ありました。

最近は新薬が次々と開発されていますが、ステロイドの正しい使い方も理解出来て何とか塗り薬だけでコントロール出来ています。これからも前向きな気持ちでアトピーと上手に付き合っていく方法を模索していきたいと思っています。

「あとぴいなう」の情報は大変有り難く励まされます。いつも大変お世話になり本当にありがとうございます。これからも毎月「あとぴいなう」が届くのを楽しみにしております。

東京都在住 NYさん

30周年おめでとうございます。

最近は外出先やインターネット上でもアトピー協会推奨品マークを見かける事が多くなりました。30年の協会活動の成果であり、アトピーで悩む方の判断の一つになっているら嬉しいなと思います。

これからも信頼されるマークとして広まっていくことを期待しています。」

大阪府在住 NIさん

創立30年をお祝い申し上げます。

通院していた大阪はびきの医療センター（旧はびきの病院）で前理事長の後藤田さんに第1回「アトピー海水浴キャンプ」に誘っていただき参加したことでご縁ができました。

そのころ私の周りにアトピー患者さんがいなかったの、キャンプに参加したことで同じ患者さんとアトピーあるあるの話をしたり、引率の皮膚科の先生とゆっくりお話ができたことがとても楽しい思い出になっています。一人だと孤独を感じてしまうことも同じ病気の患者さんと笑いながら話すことで心が軽くなるのだと思いました。

このような活動を続けていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも患者さん同士や患者さんと先生を繋ぐ活動が続けていただきたいと思います。

大阪府在住 KYさん

30周年おめでとうございます。

アトピー協会様と出会ったのは、ある病院の貼り紙でした。病院には娘の喘息、アレルギー、アトピーで小児科と皮膚科に通院していました。その皮膚科の待合室に貼っていた海水浴旅行への誘い。

アトピー協会さんの存在は知りませんでした。現地集合で初めてお会いした現代表の倉谷さん。たくさんの参加者がいるのに子供3人を連れた私達にも気遣ってくれました。肌の状態によっては海に入れない人もいました。日焼けも大敵です。そういう対策も万全でした。病院以外でそんな理解、優しさに接したのは初めてのことでした。

『あの震災の日』、我が家は震度3でした。それでも怖かった。娘は6ヶ月頃。母乳だったので私が除去食をしていました。避難された「アトピーの子は大丈夫かな？」娘は高熱、はしかの時でさえ、生まれてから1日もシャワーを欠かすことなく清潔を保っていました。避難所では、おにぎりの配布だけと聞き予備で置いていたアレルギー用粉ミルクを数缶送りました。でもそんな僅かなもの役に立ったのか？何ができるのかな？何もできない。

アトピー協会様は、その震災をきっかけで創設したと聞きました。ちゃんと助けてくれる人達がいるのだと安堵しました。その後の東北の震災も物資を送ってくれていました。30年も救い続けてくれていたのですね。お疲れでした。そしてこれからも『誰に相談すればいいのだろう』と困っている人を救ってあげてください。

30年、本当にありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

大阪府在住 助けて頂いた一母より

30周年おめでとうございます。もう30年なんですねビックリしております。

確か創刊号からお送り頂き、残念ながら今は娘（孫）にも読ませております。当時、私もステロイド外用薬に不安があり、脱ステもしてみましたが3日と持たず脱落。そんな時に電話相談を聞いてもらったのが後藤田さん？だったと思います。私の取り留めのない不安や愚痴にもお付き合い頂き、長電話にも拘らずお付き合いくださったことをこの前のように覚えています。

「あとぴいなう」は、私にとってアトピーと共に向き合ってくれた親友のような存在となりました。新しいお薬も色々出てきたみたいですが、これからも私の親友である「あとぴいなう」を大事に育てて下さい。

いつも有難うございます。

京都府在住 KKさん

この度は30周年誠にありがとうございます。

アトピー協会が私と同じ年齢だと偶然に感じましたが、すぐに必然であることに気が付きました。30年前の阪神淡路大震災が協会を設立されたきっかけだったと、後藤田さんや倉谷さんから昔に伺った記憶があります。困っている人に支援が行き届くようにと、その理念に感銘を受けました。有難いことに長くお付き合いさせて頂いており、モニターのご依頼ではアトピー性皮膚炎で良いことは無いと思っていましたが、役に立つこともあるのだという発見がありました。

また、毎年開催されている行事ではいったことがない場所へ訪れ、他の患者さんやご家族と交流する機会があり楽しみの一つになっています。

これからも末永くよろしくお願い申し上げます。

滋賀県在住 HHさん

結語にかえて

30年を改めて振り返り、あれをしてみたり。これをやってみたり。と暗中模索だったようにも思います。阪神淡路大震災の被災者様支援からスタートした当会。災害支援団体では無いのですが、大きな地震や毎年となった豪雨や豪雪災害、台風被害などが起こると、トラウマでしょうか心が騒めきます。

わたくしがスタッフとして当会に参加して23年目となりました。意気揚々にスタートして7年目の頃。華々しかった頃とは裏腹に活動は低空飛行の真っただ中。2度の引越しも経験し、まさに暗中模索で雲の向こうが見えませんでした。

アトピー患者さん支援が目標だった団体が、そのための支援をお願いする有様。小紙も創設来の発行ですが、今回で通巻161号では計算が合いません。名前（団体名）負けは否めず、続けるべきか？解散するべきか？を繰り返した日々でした。そして、現在の事務所となる2009年の引越しが、もう一度「はじめの一步」からの再スタートになったと感じております。

過去には懇意な医師や企業様、何と患者さんからもご寄付等を頂いたこともありました。患者さんに自助努力をご提案しているにも関わらず、自らがご支援を頂くことの矛盾と恥ずかしさ。ご支援する患者さんやご家族をはじめとする方からのご寄付等は頂かない。と改め、数社だった法人企業様に再度、懇願し、また厚顔無恥は心に潜め、新たな法人企業様を訪問しご賛助をお願いしてまいりました。現在では約100社以上の法人賛助会員の企業様からご賛助を賜り、皆様からのご賛同に値する活動と日々の会務の責務を感じております。

近年、アトピー性皮膚炎の新たな治療薬が続々と保険収載されており、患者さん方の日常も画期的に好転してきており、医療関係者の皆さまのご尽力には御礼の言葉も見当たりません。

今後も患者さんやご家族の日々のお声に寄り添い、相変わらず迷いながらの道のりとなるかもしれませんが、「はじめの一步」を忘れず、そして奢らず、愚直に歩んで参りたいと思います。 拝。

NPO 法人日本アトピー協会 代表理事 倉谷 康孝
スタッフ一同

送達ご希望の方はご連絡ください。

書面・メールにて受付中

日本アトピー協会通信紙 あとぴいなう

通信紙「あとぴいなう」は積極的な治療への取り組みと自助努力を促すことを趣旨とし多くの患者さんに読んでいただきたく無料でお届けしております。ご希望の方はお届け先・お名前・電話番号やメルアドなどをお知らせください。患者さん・医療従事者の方に限定しておりますが一般の方もご希望でしたらご連絡ください。スクリーニングの結果、お届け出来ない場合もありその節はご容赦ください。なお協会ホームページからもお申し込みいただけます。

次号発行予定 5月12日

〒541-0045
大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階
電話 06-6204-0002 FAX.06-6204-0052
E-Mail jadpa@wing.ocn.ne.jp
Home Page <https://www.nihonatopy.join-us.jp/>